

# 新村の福祉を**考**える

## 新村地区の高齢者等交通手段確保に向けて

新村福祉  
システムネットワーク

新村住民有志 / 新村公民館  
松本市河西部地域包括支援センター  
松本市 / 松本大学

### 新村福祉システムネットワーク

地域のお年寄りや学生たちの寄り処となっているお店での会話の中で、交通手段を持たないお年寄りにとって日々の買い物が困難なことが切実な問題として語られました。それを受け止め、「なんとかならないだろうか」と行政に連絡した店主。その声に、直接出向いて耳を傾け受け止め、地域の問題として調査しようと地域や松本大学に協力を求めた行政側。その思いを受け入れ、地域の問題をともに考えていこうと応えた大学と学生。調査が進むにつれ、「この問題は、我々の問題なのだ」と立ち上がった町会役員OB、民生委員、主婦、店主、公民館など、様々な分野の新村住民有志の皆さん。

アンケート調査をまとめ、考察していく中で、これからの新村の地域福祉を本気になって考えていかねばならないと、産学官民による『新村福祉システムネットワーク』という協働チームが生まれました。

活動 内容	8～9月	◇新村地域で何が行えるのかを考えるための学習会と他地域視察研修会を実施
		◆松本市公共交通システム学習会
		◆安曇野市デマンド交通視察研修会
		◆道の駅視察研修(堀金・伊那グリーンファーム)
		◆伊那市送迎ボランティアサービス視察研修会
		◇松本大学にて学生の学びを実践報告
		◇研修会、学習会参加者によるふりかえりと今後における、新村のできることを整理
	10～11月	◇松本大学梓乃森祭・新村文化祭にてパネル展示
		◇新村文化祭にて活動報告会・パネル展示
		◇今後の住民主体の活動展開における話し合い



### 活動を行って

市村 一裕 松本大学総合経営学部観光ホスピタリティ学科 3年

最初は、地域の方からの交通の不安があるだけでした。市役所の方、仲間と共に試行錯誤の上、アンケート調査をしたのを覚えています。その後、19年度の任期を終えた新村の町会長や住民有志の方と一緒に活動していくことになりました。地域の方々の生の声を聞いたり、ともに作業したりして勉強になりました。ここまで進めてくることのできたのは、メンバー同士で役割分担をし、互いに協力しながらやってきたからです。しかし、それは地域の方のサポートや福島先生のコーディネートもあって出来たことです。何かを始めるにも、一人では何も出来ないことが仲間と共にやることで様々な意見を取り入れることが出来、多くの視点から物事を見ることができ、乗り越えることができます。そのことをこの活動を通じて学ぶことができました。そして、何より1年間という長い時間の中で、行政や地域の方々とともに活動でき、地域の福祉を根本から考え行動するという貴重な体験ができたことを誇りに思います。数人の高齢者の意見で始まったこの活動を、地域の皆さんで今後も大きく発展させ、自分たちがやってきたことが新村の福祉に役立ってほしいと思います。地域の皆さんをはじめ、協力していただいた皆さんに感謝いたします。

### 報告を受けて

新村 道夫 新村地区連合町会長

この問題は本来ならば、新村地区で取り上げて考えていかなければならない問題です。これまでの調査研究報告を受けて、2つの問題についてふれてみたいと思います。

1つは、「交通手段をどうするか」です。松本市でも西部地区の公共交通について急ピッチで進められ、コミュニティバスの実験運行にまで進展しました。これが実現化されれば、新村地区の交通問題はだいぶ解消されます。しかし、停留所から離れている人達の交通手段への取り組みが未解決のままです。「今後、町会福祉部を中心に町会、民生委員会がバックアップして実現可能な方向へ一歩進めたいと思います。」

2つ目は、地区内にスーパーのようなお店をつくることです。158号バイパスの開通に合わせて、「道の駅」をつくり、日用雑貨をはじめ地区でとれた農産物も売れるようにすれば、買い物に行くにも容易になり、地区住民の雇用の場も広げられ一石二鳥です。今後の動向を注意深く見守っていく必要があると思います。